

平成26年度(10月30日以降適用) 積算基準〔1一般土木〕第Ⅱ編 共通工 正誤表

頁	現 行	訂 正
Ⅱ-2-⑤-14	<p>(注) 1. 上表は、L型擁壁(平均擁壁高さ3.0m以上10.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(パイプレータ、水中ポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。</p> <p>2. コンクリート・鉄筋のロスを含む。</p> <p>3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。</p> <p>4. 化粧型枠については加算費用を、3-7化粧型枠により別途計上すること。</p> <p>5. ペーラインコンクリートの材料費については、3-9ペーラインコンクリート(材料費)により別途計上すること。</p> <p>6. ガス圧接が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章①-2鉄筋工(ガス圧接)」により別途計上する。</p> <p>7. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。</p> <p>8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。</p> <p>9. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工⑤-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。</p>	<p>(注) 1. 上表は、L型擁壁(平均擁壁高さ3.0m以上7.0m以下)のコンクリート、型枠(はく離剤塗布及びケレン作業含む)、鉄筋、基礎材、均しコンクリート、手摺先行型枠組足場、目地材、水抜パイプ、吸出し防止材(点在)、養生(一般養生、特殊養生(練炭・ジェットヒータ)、仮囲い内ジェットヒータ養生)、圧送管の組立・撤去、ペーラインコンクリートの施工の他、雑機械器具(パイプレータ、水中ポンプ、電気ドリル、電気ノコギリ、シュート、ホッパ等)の損料等、その施工に必要な全ての機械・労務・材料費(損料等を含む)を含む。ただし、化粧型枠は含まない。</p> <p>2. コンクリート・鉄筋のロスを含む。</p> <p>3. 設計数量は、つま先版、かかと版、突起を含む擁壁本体コンクリートの数量とする。</p> <p>4. 化粧型枠については加算費用を、3-7化粧型枠により別途計上すること。</p> <p>5. ペーラインコンクリートの材料費については、3-9ペーラインコンクリート(材料費)により別途計上すること。</p> <p>6. ガス圧接が必要な場合は、「第Ⅵ編第2章①-2鉄筋工(ガス圧接)」により別途計上する。</p> <p>7. 基礎碎石の敷均し厚は、20cm以下を標準としており、これにより難い場合は別途考慮する。</p> <p>8. 擁壁平均高さは、擁壁の前面勾配或いは背面勾配、天端幅、擁壁種類が同一の構造形式のブロックにて判断すること。</p> <p>9. 「仮囲い内ジェットヒータ養生」の場合には「足場」費用は含んでいない。「第Ⅱ編第5章仮設工⑤-2雪寒仮囲い工」により別途計上する。</p>